

米国 予想を上回ったものの最終財コアの基調は安定 (06年5月生産者物価)

発表日：06年6月13日(火)

～生産者物価コアは前年同月比+1.5%と低い伸び～

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治(かつらはた せいじ)

(03-5221-5001 : seiji@dlri.dai-ichi-life.co.jp)

	最終財		生産者物価 (Producer Price Indexes)				原材料		<参考>		WTI
	コア	エネルギー	コア	エネルギー	コア	エネルギー	コア	輸入物価			
05/05	▲0.2	(+3.6)	+0.2	(+2.8)	▲1.6	▲0.3	▲0.3	▲3.1	▲2.9	▲0.2	50.0
05/06	+0.1	(+3.7)	▲0.1	(+2.4)	+1.5	+0.2	▲0.1	▲1.7	▲3.6	▲0.2	56.4
05/07	+0.8	(+4.7)	+0.3	(+2.8)	+3.9	+1.0	+0.1	+5.1	+0.6	▲0.2	58.9
05/08	+0.5	(+5.3)	+0.0	(+2.6)	+3.0	+0.5	▲0.1	+3.5	+4.6	+0.1	65.0
05/09	+1.4	(+6.9)	+0.2	(+2.6)	+5.4	+2.3	+1.0	+10.5	+5.6	+0.9	65.5
05/10	+0.8	(+5.9)	▲0.3	(+1.8)	+4.3	+3.0	+1.4	+5.7	▲1.5	+1.0	62.3
05/11	▲0.5	(+4.4)	+0.1	(+1.7)	▲3.1	▲1.3	+0.4	▲1.4	+2.4	▲0.1	58.2
05/12	+0.7	(+5.4)	+0.0	(+1.4)	+2.4	+0.3	+0.4	▲3.5	+1.9	+0.0	59.4
06/01	+0.3	(+5.6)	+0.4	(+1.3)	+0.1	+1.0	+0.9	▲0.8	▲0.2	+0.3	65.3
06/02	▲1.3	(+3.7)	+0.4	(+1.7)	▲4.8	▲0.3	+0.4	▲8.1	+3.1	▲0.5	61.7
06/03	+0.5	(+3.5)	+0.1	(+1.7)	+1.8	▲0.1	+0.1	▲2.7	+0.8	▲0.3	62.9
06/04	+0.9	(+4.0)	+0.1	(+1.5)	+4.0	+0.9	+0.4	+1.2	+4.7	+0.0	71.8
06/05	+0.2	(+4.5)	+0.3	(+1.5)	+0.4	+1.1	+1.1	+2.0	+6.2	+0.5	71.3

(出所) 労働省 (Department of Labor)

(注) 数字は季調済前月比。但し、() 内は前年同月比 (未季調)。

コアは前月比+0.3%と市場予想を上回った

06年5月の生産者物価(最終財)は、エネルギーの鈍化、食料の下落によって前月比+0.2%と市場予想の同+0.4%を下回った。変動の大きい食料・エネルギーを除いたコア(最終財)は、乗用車のマイナス幅縮小、紙製品、宝石・貴金属等の上昇等によって同+0.3%と市場予想の同+0.2%を上回った。

しかし、前年同月比では+1.5%とエネルギー・商品市況の高止まりが続くなかで低い伸びにとどまっている。また、基調を示す3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率をみると、中間財(コア)が+5.5%(前月同+5.4%)と1月以降伸びが鈍化しており、遅れて影響を受ける最終財(コア)も5月に同+2.8%(同+3.3%)と鈍化した。競争圧力の激化や生産性の向上等を背景に、川下への波及が限定的なものにとどまっている状況に変化はみられず、最終財(コア)は落ち着いた状態を維持している。

資本財、消費財コアともに小幅伸びが加速

最終財段階でのカテゴリー別の動向をみると、食品関連では野菜、卵等の下落によって、食品価格は前月比▲0.5%(前月同+0.1%)とマイナスに転じた。エネルギーは前月比+0.4%(同+4.0%)と減速した。天然ガスが同▲3.1%(同▲3.0%)とマイナス幅が拡大し、家庭用電力が同+0.1%(同+0.6%)、ヒーティングオイルが同+2.6%(同+13.7%)、ガソリンが同+2.2%(同+12.3%)と鈍化した。

消費財(エネルギー・食料品を除く)は前月比+0.2%(前月同+0.1%)と小幅加速した。消費財(エネルギー・食料品を除く)では、乗用車価格が同▲0.4%(同▲0.8%)とマイナス幅が縮小し、定期購読誌、衛生紙、女性・子供用衣服が上昇に転じた。さらに、宝石・貴金属、石鹼、タイヤの上昇ペースが加速した。

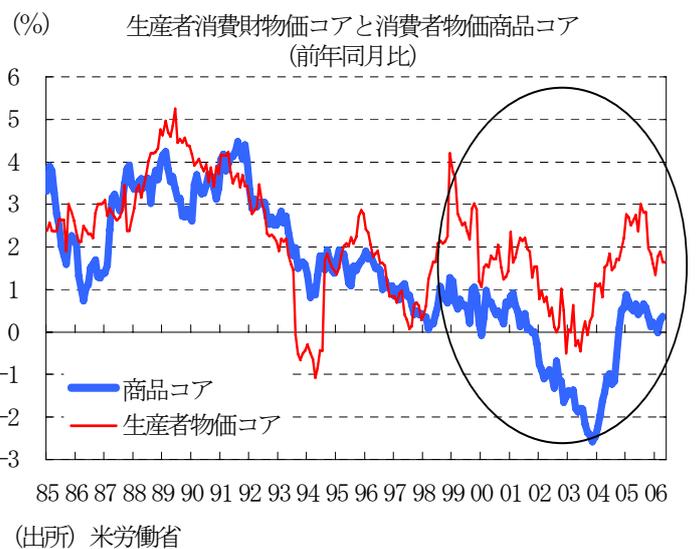
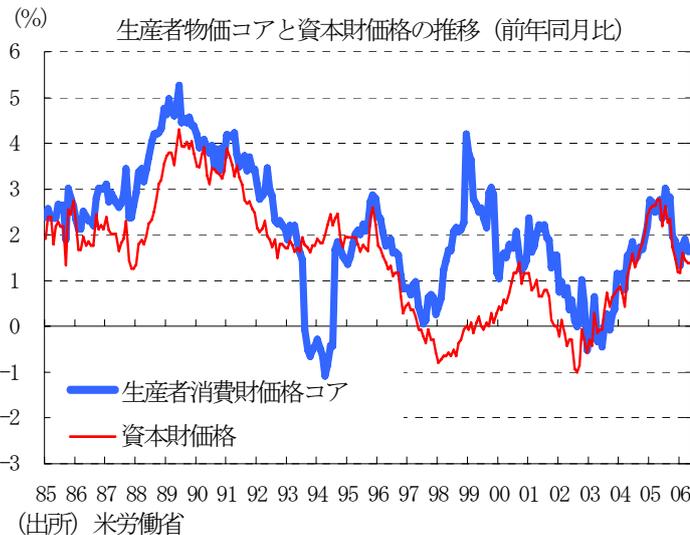
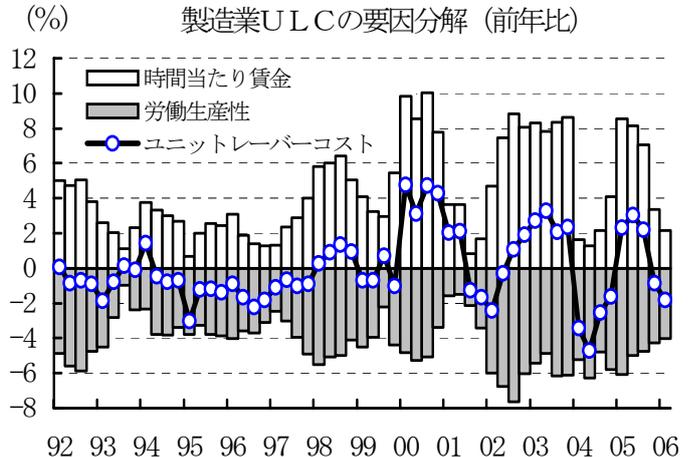
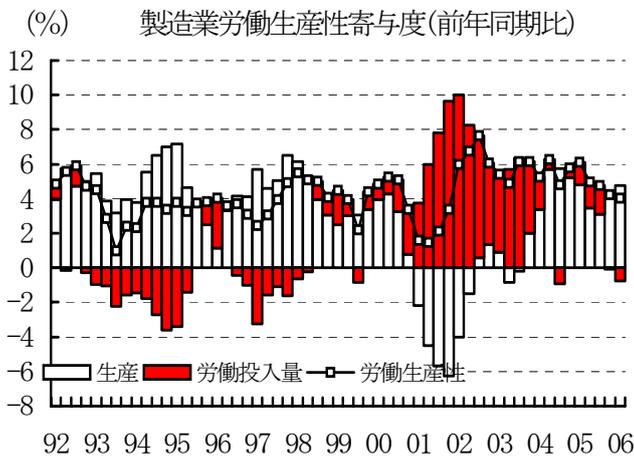
資本財は前月比+0.3%(同+0.2%)と小幅加速した。資本財では、コンピューター価

格の下落幅が縮小し、軽トラック、大型トラック、石油・ガス掘削機、鉱業機械、印刷機が上昇に転じた。

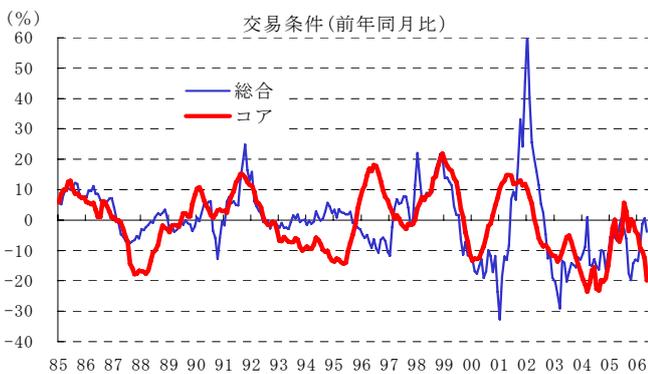
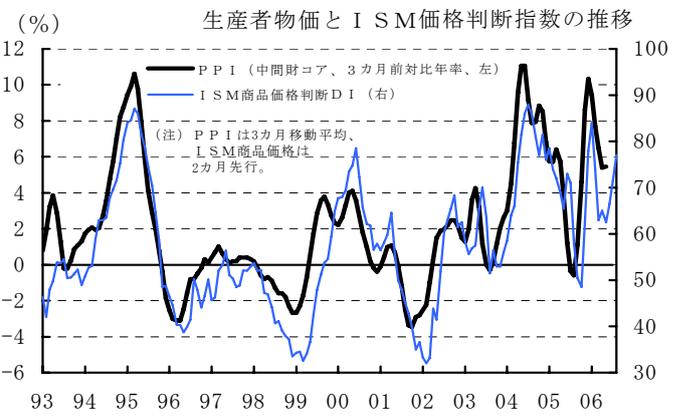
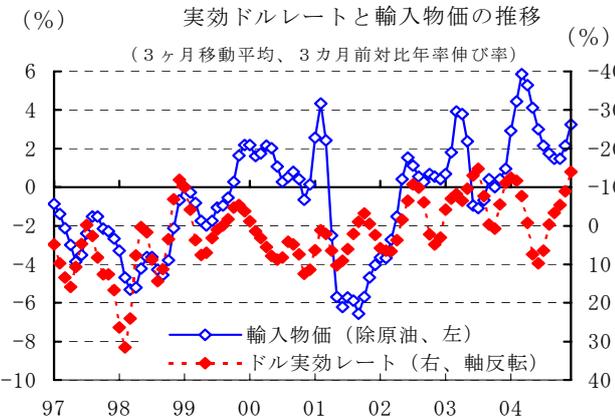
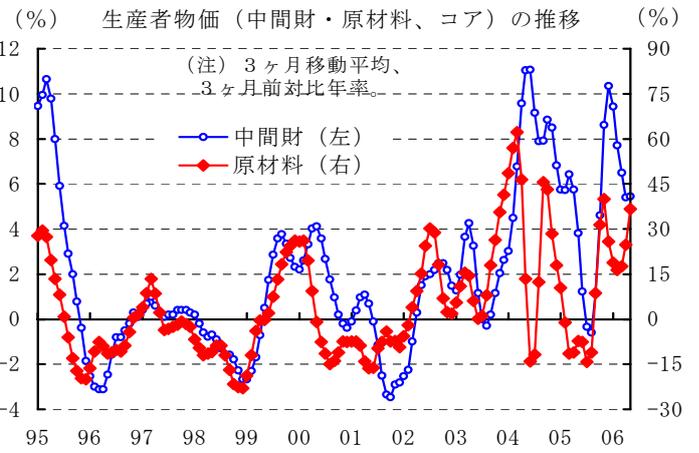
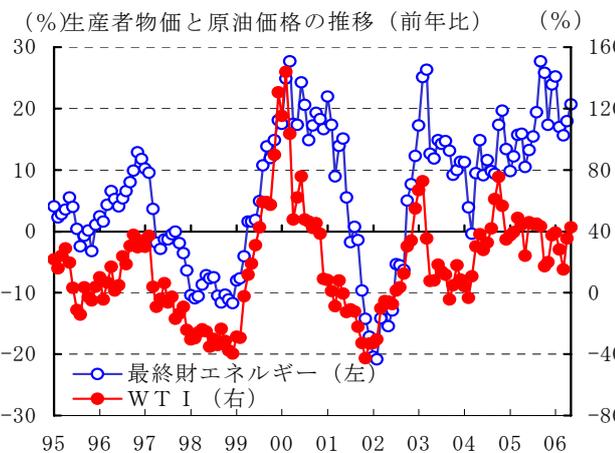
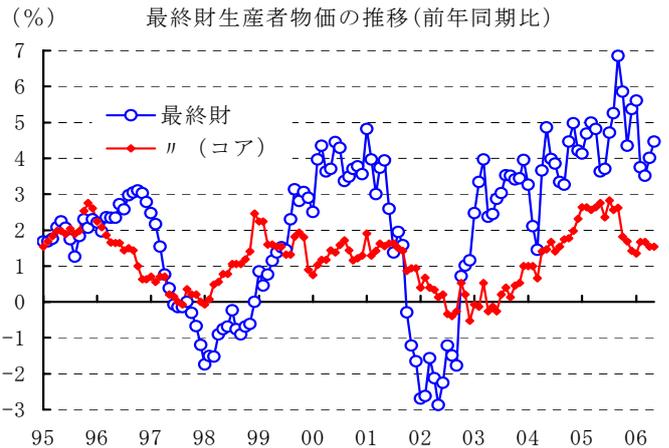
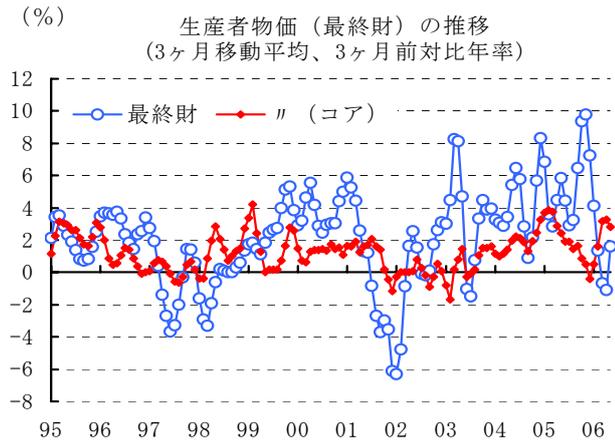
生産者物価（最終財）コアは前月比で緩やかな上昇にとどまる公算

今後に関しては、世界的な景気拡大に伴う供給不足懸念等を背景に商品価格、エネルギー価格が再び上昇したため中間財（コア）に2ヵ月程度先行する仕入価格指数（ISM製造業景気指数）が再び上昇していること、川上でのインフレ圧力を示す原材料（コア）が3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率で4月に+36.7%（前月+24.8%）と加速したことから、中間財コアは再び上昇ペースを速めると見込まれる。

もともと、川上での物価上昇圧力が強まっても、製造業では①売上の増加による数量効果、②情報化投資やリストラクチャリング等による生産性の向上、③利益率の改善などによってコストの増加をある程度吸収できるとみられ、価格競争が激しいなか生産者物価（最終財）コアは前期比で緩やかな上昇が続こう。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。